

☆ ボランティアさんの一言 ☆

先月、第1回高崎ミネラルマルシェがGメッセで開かれました。このイベントには、隕石を扱う店もあり、これを目当てに行ってきました。

実は私、隕石大好きおじさんです。隕石は、宇宙から地球の重力に引かれ、地上に落下した物です。小さな隕石は、大気とのまさつで光り(流れ星)消えてしまいますが、大きくなると、長く光り(火球)残りが地上に届きます。隕石はとても不思議で夢を感じる貴重な石です。

(星呑屋(ほしのみや)より)

開館時間：15：00～21：30

☆ 7月の見頃の時間は19:30ごろです ☆

↓ 当日の天候はWeb、またはFacebook・Twitterにて ↓



Web



Facebook



Twitter



Instagram

#くらぶちこども天文台



くらぶちこども天文台
KURABUCHI KODOMO OBSERVATORY

〒370-3403 群馬県高崎市倉渕町水沼2930番 TEL：027-386-6837

※ お天気などご不安な点ありましたらお気軽にお電話ください ※

くらぶちこども天文台

2021★7月の星空

つゆあまとおきせつ しつど おおひ
梅雨明けが待ち遠しい季節ですね。湿度の多い日が続きますが、そんな時は望遠鏡のメンテナンスも忘れずに行きたいところです。望遠鏡の心臓部ともいえるレンズや鏡は、湿気の多いところだとカビてしまいます。ご自宅に望遠鏡や双眼鏡がある方は、ぜひこの機会に一度確認や乾燥剤の検討をしてみたいはいかがでしょうか。



今月の星座



Stellarium 0.19.0 / <https://stellarium.org/ja/>より

誕生星座は、【おとめ座】【てんびん座】【さそり座】が見頃になります。

【さそり座】が昇ってくればそろそろ天の川の季節です。北の空には『北斗七星』と【カシオペア座】が両方見れますよ！

また、『春の大曲線』や、『春の大三角』に加え、『夏の大三角』も見つけやすくなります。まさに季節の変わり目ですね！

星空トピックス 『望遠鏡のしくみ④』

宇宙の世界を近くで観せてくれる望遠鏡。4月から数回に分けて、望遠鏡のしくみについて解説しています！今月は望遠鏡の架台について！

◇自由に動かすか、星の動きをしっかりと追うか

望遠鏡にとって、鏡筒の次に大切なのが『架台』という実際に望遠鏡をのせて動かす部分です。主に『経緯台』と『赤道儀』の2種類があります。

●経緯台に望遠鏡をのせると？

東西南北（上下左右）好きな方向に動かすことができます。三脚がしっかり立てられる場所ならばどこでも望遠鏡を設置することができ、コンパクトで軽く、初心者でも扱いやすい架台です。ただし、地球の自転による星の日周運動を正確に追尾するには向かず、カメラを使った長時間の撮影などには不向きです。（現在はデメリットを克服する架台も開発されています）

●赤道儀に望遠鏡をのせると？

赤経赤緯（東西南北）の方向に動かして使います。必ず極軸という部分を北極に向けて設置しなければならず架台自体も重いので、動かし方に慣れるまで練習が必要ですが、地球の自転による星の日周運動を望遠鏡が楽に追尾できるように設計されているため、長時間の観望や本格的な撮影に効果を発揮します。

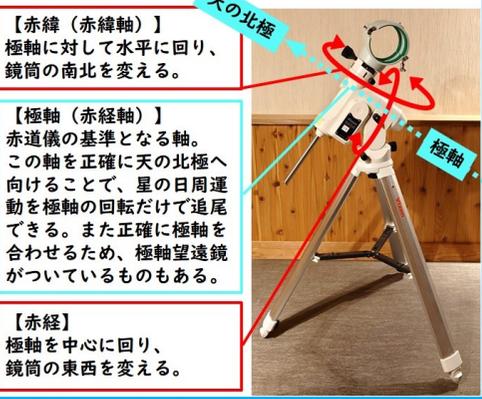
●経緯台の動き



【高度】
上下に動き、視野の高度を変える。

【方位】
左右に動き、視野の方位を変える。

●赤道儀の動き



【赤緯（赤緯軸）】
極軸に対して水平に回り、鏡筒の南北を変える。

【極軸（赤経軸）】
赤道儀の基準となる軸。この軸を正確に天の北極へ向けることで、星の日周運動を極軸の回転だけで追尾できる。また正確に極軸を合わせるため、極軸望遠鏡がついているものもある。

【赤経】
極軸を中心に回り、鏡筒の東西を変える。